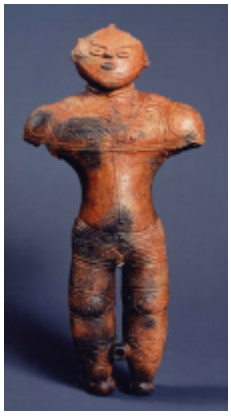
北の縄文文化回廊づくり

アクションプログラム



平成１６年３月

北の縄文文化回廊づくり実践プログラム検討チーム
（北海道、青森県、岩手県、秋田県）

表紙の写真：左上　中空土偶（南茅部町著保内野遺跡出土）
中が中空になっていることから「中空土偶」と呼ばれる。

右上　合掌土偶（八戸市風張遺跡出土）
手を合わせて、まさしくお祈りしているように見える。

左下　板状土偶（鷹巣町伊勢堂岱遺跡出土）
板状の土偶、なんらかの儀式に用いられた道具と考えられる。

右下　鼻曲がり土面（一戸町蒔前遺跡出土）
見る角度によって様々な雰囲気を醸し出し、縄文時代に仮面を被る儀式が広く存在したことを示す。

目　　次

Ⅰ　策定の趣旨　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

Ⅱ　実施期間　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

Ⅲ　北の縄文文化回廊とは　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

　1　北の縄文文化回廊とは　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

　2　各道県を代表する縄文遺跡　・・・・・・・・・・・・・・・・・　5

Ⅳ　北の縄文文化回廊づくりに向けた推進方策

　1　プログラム推進体制の整備　・・・・・・・・・・・・・・・・・　１３

　2　普及啓発　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１４

　3　人づくり・地域づくり　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１６

　4　観光資源としての活用検討・促進　・・・・・・・・・・・・・・　１８

　5　その他　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１９

Ⅴ　おわりに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１９

Ⅵ　資　料

　1　主な史跡・文化財　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２０

　2　関係機関・団体　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２５

　3　第７回北海道・北東北知事サミットにおける合意事項　・　２７

北の縄文文化回廊づくりアクションプログラム

Ⅰ　策定の趣旨

北海道・北東北地域には、北海道遺産にも指定された内浦湾沿岸の遺跡群、青森県の三内丸山遺跡、岩手県の御所野遺跡や秋田県の大湯環状列石などが多数存在し、縄文時代にも海を越えた交流が行われていたとされています。

この地域がかつて極めて高いポテンシャルを持っていたということを道民、県民が認識し、情報を共有することは、地域の将来にとって大きな意味を持つものであり、縄文文化遺産などの価値を見直し、地域間交流や情報発信などを行い、世界遺産登録も視野に入れて、この地域を「北の縄文文化回廊」として内外にアピールしていくことが重要です。

このため、今後、北海道、青森県、岩手県、秋田県の４道県が「北の縄文文化回廊づくり」を進めていく上での指針として、本プログラムを策定し、４道県や市町村、地域などで縄文文化を核にした地域間交流などを進めていくにあたっての具体的な取組みとその手順をお示ししようとするものです。

Ⅱ　実施期間

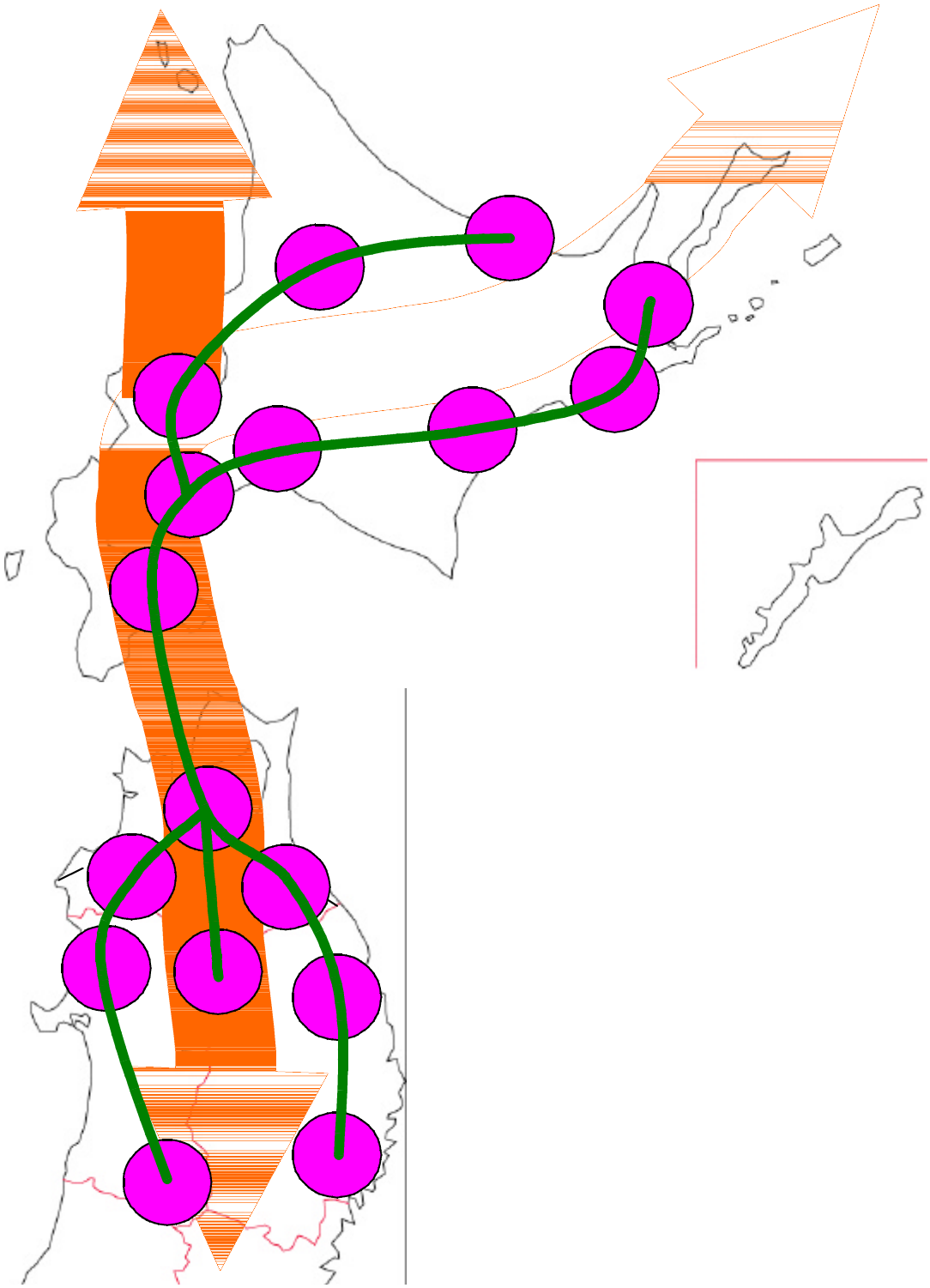
本プログラムの目標年度は、４道県持ち回りで取り進める事業等も考慮し、平成１６年度から１９年度までの４年間とし、２年を経過した時点で、プログラムのあり方などについて、再度見直しを図ります。

Ⅲ　北の縄文文化回廊とは

１　北の縄文文化回廊とは

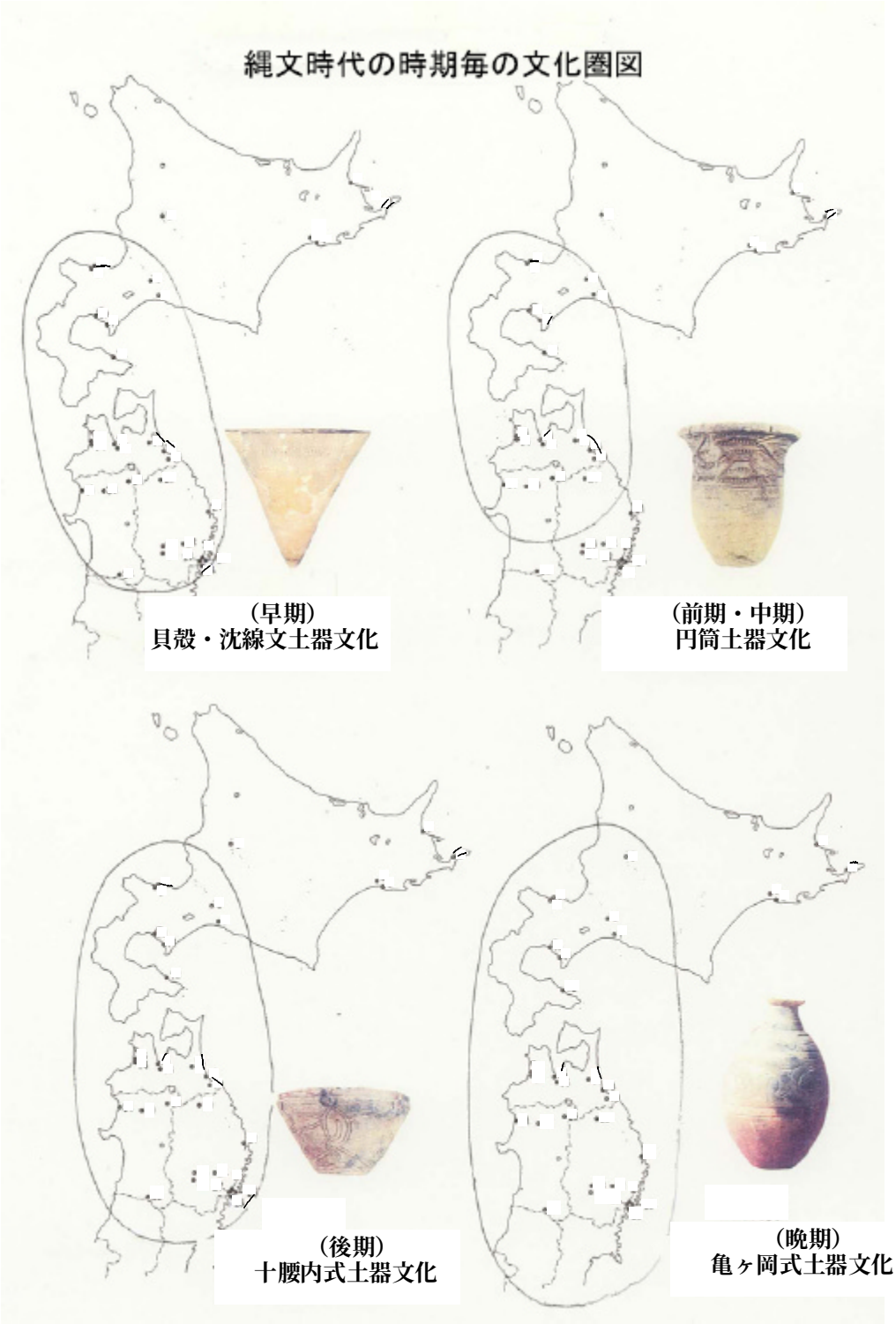
「回廊」とは、長くて折れ曲がった廊下、中庭や建物を囲み、または建物の間を連結する屋根のある廊下のことであり、北海道・北東北に存在する縄文文化遺跡を結ぶ人や地域のネットワークなどを「回廊」という言葉で象徴しようとするものです。

北の縄文文化回廊イメージ図

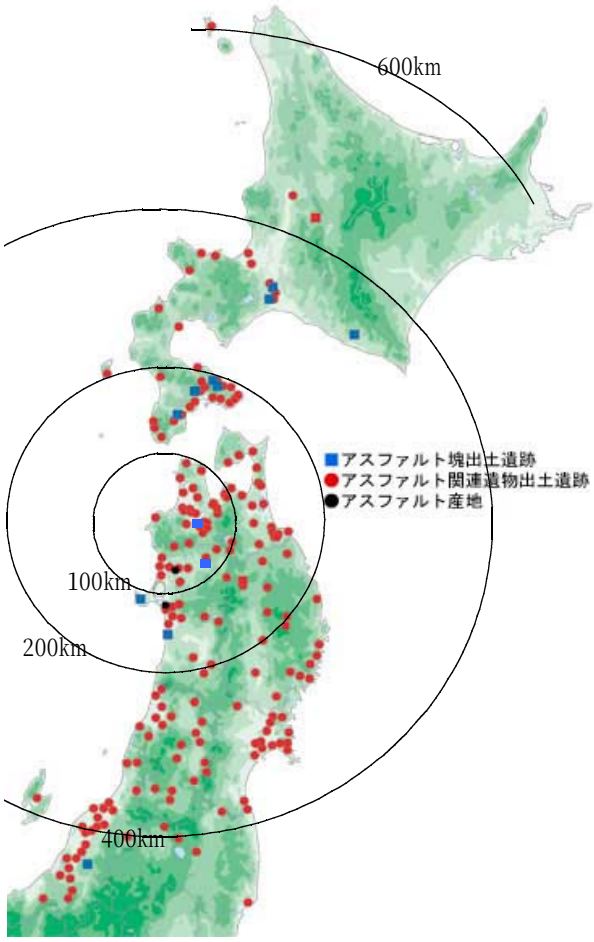


縄文時代の文化圏

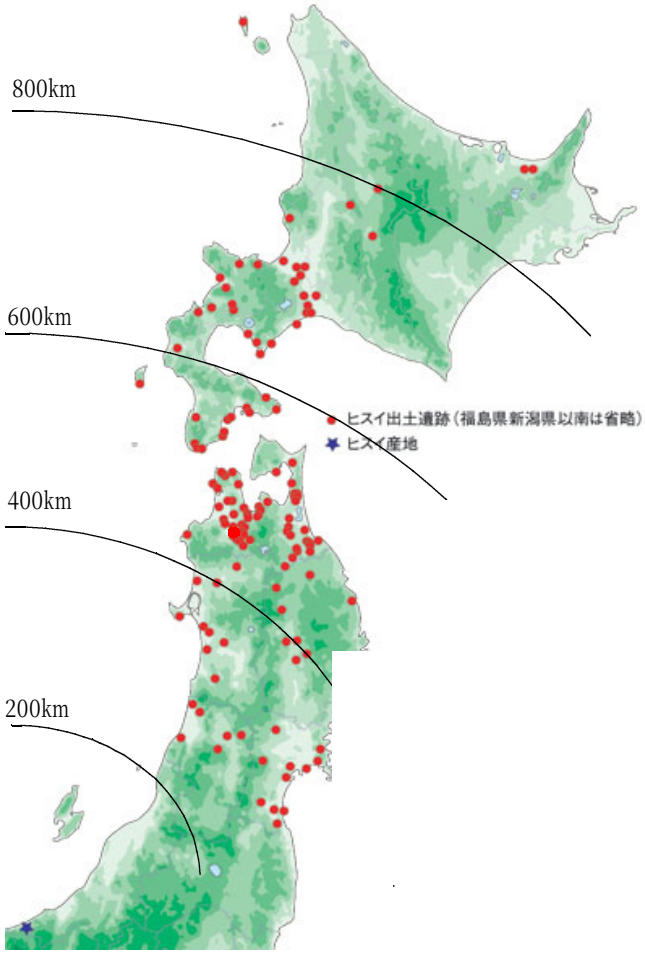
この地域は、時代毎に貝殻・沈線文土器文化（早期）、円筒土器文化（前期・中期）、十腰内式土器文化（後期）、亀ヶ岡式土器文化（晩期）と称される共通の文化圏を形成し、地域内あるいは地域外との盛んな人的・物的交流が行われていたことが、アスファルト、ヒスイ、琥珀、黒曜石などの出土品から明らかになってきています。



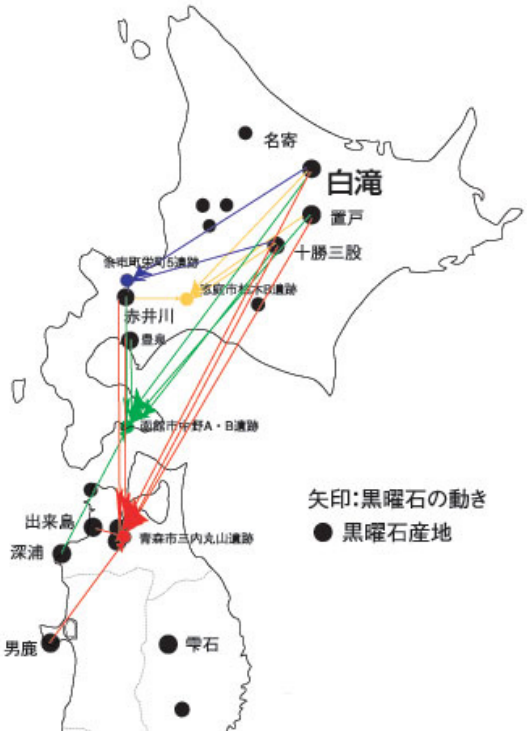
アスファルトの分布



ヒスイの分布



黒曜石の移動



2　各道県を代表する縄文遺跡

北海道：内浦湾（うちうらわん）岸沿の縄文文化遺跡群

内浦湾沿岸は、北海道と本州を結ぶ縄文文化の交易路で、その特性が遺跡・遺物によく表れています。現在、盛んに発掘が行われている南茅部町では、精巧な漆塗り製品なども出土し、全国的に注目を集めています。伊達市では、縄文時代の様子を復元するなど、遺跡を活かした町づくりの取組みが進められています。

平成１３年１０月には、次世代に引き継ぎたい北海道民全体の宝物として「北海道遺産」に選定されました。

○南茅部町（みなみかやべ）大船（おおふね）遺跡

大船遺跡は、大船川左岸の台地にある縄文時代中期（4～5,000年前）の遺跡です。目の前には内浦湾が広がり、背後には「栗の木山」、また、サケ・マスが遡上する大船川も流れているなど、自然環境に恵まれたところです。

大規模集落跡

平成８年の発掘調査で、竪穴住居96軒、食料を保存する貯蔵穴や、お墓など土坑64基などが発見され、大規模な集落跡であることがわかりました。出土した遺跡も膨大で、個体土器360点を含む約18万点が発見されました。

大船遺跡が栄えた縄文時代中期には、津軽海峡を挟んだ東北北部と北海道南部に「円筒土器文化」という共通の生活圏がありました。

青森県の三内丸山（さんないまるやま）遺跡はその代表的な遺跡ですが、大船遺跡は北海道側の拠点的集落の一つとして注目され、平成１３年に国指定史跡となりました。

○伊達市北黄金貝塚

北黄金貝塚の「縄文の丘」を見る景色

北黄金貝塚は、内浦湾を西にのぞむ標高３０ｍ前後の海岸段丘上に立地する縄文時代前期（約5,500年前）を中心とする遺跡です。

昭和２５年の伊達高校郷土研究部による発見を契機にして、昭和２８年以降１５次にわたる発掘調査が実施されました。

その結果、４カ所の貝塚のほか、竪穴住居跡や保存良好な人骨を伴っている墓壙が確認され、遺物土器、石器、骨角器、獣骨等 が多く発見されています。

縄文時代前期を中心としたこの貝塚は、極めて保存良好な遺跡のみならず全国の貝塚群の中で最大級の貝塚であることからも、縄文時代研究にとって重要な遺跡です。

○虻田町入江・高砂貝塚

入江・高砂貝塚

史跡入江・高砂貝塚は、標高10～20mの海岸段丘上に立地する縄文時代前期から晩期（約5,000～2,500年前）にかけての大規模な貝塚遺跡です。

昭和25年に伊達高等学校郷土研究部によって発掘調査が始められ、これまで十数回の発掘調査が行われています。

入江貝塚では、3地点の大規模な貝塚、竪穴住居跡、埋葬人骨が発見され、「貝塚・住居・墓」が一体となった大規模な集落跡であるということがわかりました。

高砂貝塚は、縄文時代後期に作られた貝塚、縄文晩期に形成された墳墓群、近世アイヌ期の畝状遺構などが発見されました。

入江・高砂貝塚は噴火湾岸における縄文時代後・晩期を代表する貝塚であり、周辺の自然環境、生業、縄文人の形質や葬法などを知る上で重要なことから、入江貝塚は昭和63年に国史跡指定となり、高砂貝塚は平成14年に追加指定を受けました。

青森県：縄文時代遺跡

青森県は縄文遺跡の宝庫で、縄文時代の各時期にわたる重要な遺構・遺物が多数確認されています。

蟹田町大平山元Ⅰ遺跡から出土した土器の破片は、いずれも小さく、文様の無いものばかりですが、縄文土器の起源を探る上で重要な発見となりました。

それに続く隆起線文系土器、爪形文系土器、多縄文系土器などの草創期の資料は、六ヶ所村表館遺跡や八戸市鴨平(２)遺跡、同市櫛引遺跡他から出土しています。

早期には太平洋側を中心に多くの貝塚が作られます。八戸市長七谷地貝塚では海水性の貝とともに魚類・鳥類・哺乳類骨が出土しました。結合釣針や開窩式銛頭などの骨角器の出土も特筆されます。温暖な気候と推定される前期には内陸部からも貝塚が見つかります。天間林村二ツ森貝塚からは海水性・汽水性の貝類、魚類・鳥類・哺乳類骨、人骨などの他に鯨骨製青龍刀形骨製品や鹿角製の櫛も出土しています。太平洋側に較べ日本海側の貝塚は多くありませんが、木造町田小屋野貝塚で汽水性のﾔﾏﾄｼｼﾞﾐを主体とする貝塚が確認されています。

二ツ森貝塚や田小屋野貝塚は三内丸山遺跡と同じ円筒土器文化期のものです。
円筒土器文化は前期の中頃から中期の終わりにかけての文化ですが、その時期を代表する遺跡が三内丸山遺跡です。
平成４年からの野球場建設に伴う発掘調査では、段ボール箱にして四万箱を超える膨大な遺物が出土しました。確認された竪穴住居は約５００軒となり、それ以外に、盛土遺構、大型住居、掘立柱建物、土坑墓、埋設土器などの特殊な遺構も検出されました。腐りやすいため通常の

三内丸山遺跡大型竪穴住居

遺跡から検出されることが少ない、木製品や骨角器など有機質の遺物も低地部分から出土し、それらに交じって動物や魚の骨、植物種、昆虫遺体なども次々に姿を現しました。掘立柱の柱穴からは直径１m前後の木柱も出土しました。このように、三内丸山遺跡からは縄文時代の生活や環境に関する多くの手がかりが得られました。平成６年に遺跡の保存が決まりましたが、その後も学術調査は継続され、径4.2m程度の環状配石が列状に並ぶ墓の様子なども新たにわかってきました。

後期には大規模な環状列石が出現します。青森市小牧野遺跡の環状列石は土地を造成した上に作られたもので、径は約35.5mです。秋田県大湯環状列石などとは違い、小牧野式と呼ばれる独特の石組み方式が用いられています。三角形岩板や赤色切断壷形土器など特徴的な遺物が出土しています。

小牧野環状列石

彩色は晩期に多様な展開を見せます。江戸時代から知られる木造町亀ヶ岡遺跡からは、赤や黒に彩色された土器の他に櫛や籃胎漆器も出土しています。八戸市是川遺跡からはそれらに加えて腕輪や弓などの漆塗り製品も出土しており、工芸的観点から見ても優れた遺物が多くみられます。遮光器土偶もこの時期のものです。

なお、長七谷地貝塚、二ツ森貝塚、田小屋野貝塚、三内丸山遺跡、小牧野遺跡、亀ヶ岡遺跡、是川遺跡は国指定史跡に指定され、三内丸山遺跡は平成１２年、特別史跡に指定となりました。また、三内丸山遺跡、亀ヶ岡遺跡、是川遺跡の遺物の一部は国の重要文化財にも指定されています。

岩手県：御所野遺跡

一戸町は岩手県の内陸北部に位置し、総面積の80%以上を山林原野で占め町の中央を北流する馬淵川とその支流域に小規模な集落が分布する人口１万６千人の典型的な山間地です。川沿いの平坦部とその後背地に広がる林、これこそが縄文人の生活を支えた景観であり、町内には500カ所近い縄文遺跡が分布しています。

御所野縄文公園

平成元年に町の工業団地の造成工事に伴い実施された御所野遺跡の発掘は大きな反響を呼び現地説明会には600名もの参加者がありました。住民の遺跡に対する熱意もあり、町が遺跡の保存を決定、国や県に指定申請することになり、平成５年に全国でも例がないほどのスピードで国指定史跡となり、その後土地公有化から整備計画の策定，さらに整備事業と順調に推移しました。御所野遺跡の発見が地域住民の文化財への興味・感心を高揚させたものと思われ、御所野縄文公園オープンの２年程前から解説のためのボランティアグループが結成され、博物館に隣接する史跡公園の案内は現在非常に好評です。また地元小学校では御所野愛護少年団を結成、遺跡での植栽や清掃活動を年間を通じて行っており、子供だけでなく成人も御所野の恵まれた自然環境を活用し毎週植物についての勉強会を実施する団体など、遺跡と係わる住民が多くなってきています。

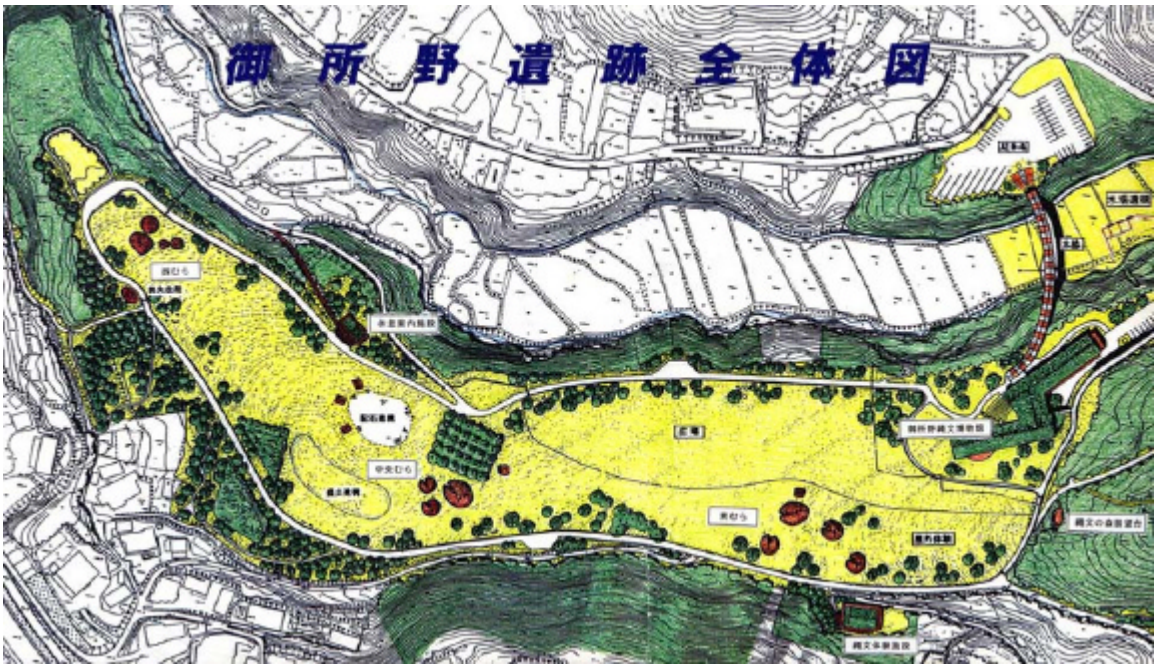
東西500m，南北100～150mの東西に長い65,000㎡という広大な台地全面が遺跡です。台地のほぼ中央に墓があり、その東西に住居群が分布している今から4,000年前の縄文時代中期の遺跡です。周辺の恵まれた自然環境を守るため遺跡だけではなく周辺の山林など約75,000㎡を買い上げており、自然景観も含めた遺跡の保存計画を具現化することが可能となり、「歴史・自然環境と地域文化の共生」を理念とし、

（１）史跡と景観の保全
（２）学習と体験の場
（３）観光と憩いの場

以上を基本方針とし整備をすすめ、御所野縄文公園として14年度オープンしています。御所野縄文公園という施設名は、御所野縄文博物館、遺跡の広場、きききのつりはしという３つの施設の総称です。

遺跡の広場は縄文時代の集落を復原したもので、遺跡中心部の周りに掘立柱建物３棟、さらにその外側に広がる東むら、中央むら、西むらに象徴的な住居を復原しました。住居の基本は整備に伴う発掘調査で明らかになった土屋根住居で９棟復原、その他小型の樹皮葺き住居も各むらに一棟づつです。いずれも中には自由に入れるが、特に東むらの住居には発掘調査で得られた情報をもとに内部空間を復原しており、敷物、道具など縄文生活を実感できる展示を行っています。

「きききのつりはし」は地元産のカラマツの集成材でつくった駐車場から広場・博物館へのアクセスのための吊橋で、屋根付きの曲がった吊橋という非常にユニークなデザインで周辺環境に溶け込んでいます。



秋田県：縄文時代遺跡

秋田県内では、米代川流域と雄物川流域・子吉川流域とでは縄文時代前期から中期中頃にかけて土器文化が異なり、縄文文化の南北性を検証できます。また、後期から晩期にかけては環状列石が多く作られています。環状列石は縄文時代の人びとの持つ、高い精神性を考えることができます。縄文人は、科学技術こそ現代人より劣っていますが、心の豊かさ、人間性（感情、感性、思考力、想像力、表現力）は、現代人よりも優れていたと考えられます。この心の豊かさ、人間性の象徴として共同して作られたのが環状列石です。縄文時代の人びとが、歓喜あふれて集い踊ったこの環状列石遺跡は、各地に残る祭りの原風景と捉えることができます。

○鹿角市大湯環状列石

特別史跡大湯環状列石は、縄文時代後期の万座・野中堂の二つの大きな環状列石と小規模な環状や方形の配石遺構などからなる大規模な祭祀遺跡です。野中堂環状列石は直径約42m、万座環状列石は直径約46mです。どちらも大きな川原石を日時計型などに組み合わせた組石遺構が群れをなし、二重の環状に配置され、その外側には建物跡群が取り囲んでいます。この建物群は葬送儀式などを行う施設であろうと考えられています。ベンガラを塗った壺や台付土器、土偶、鐸形土製品、キノコ形土製品、足形土製品、石刀などの祈りと祭りに関係すると考えられる道具も多数見つかっています。

万座環状列石

○能代市杉沢台遺跡

縄文時代前期の大規模な集落跡で、竪穴住居跡44軒、食糧を保存するための貯蔵穴109基が見つかり、この地域の拠点的な集落であることがわかりました。中でも平面形が小判形で長軸約31mもある国内最大級の大型住居跡は、住居中央を境にして柱の並び方が異なり、住居の中の使い方に違いがあったことが推定されています。また、貯蔵穴にはﾔﾏﾄｼｼﾞﾐの貝殻が捨てられていたものがあり、貝が春から秋にかけて採集されていたことがわかりました。

○鷹巣町伊勢堂岱遺跡

伊勢堂岱遺跡

４つの環状列石、土壙墓、掘立柱建物跡などからなる縄文時代後期の祭祀遺跡です。最も規模の大きな環状列石は直径約45mで、拳大から人頭大の川原石を小牧野型などに組み合わせた配石遺構で構成される大規模な環状列石の外側に一巡するように掘立柱建物跡群が配置されています。

環状列石に近い沢からは、土偶やキノコ形土製品なども見つかり、環状列石を中心にいろいろな祭りが行われていたと考えられています。大湯環状列石とともに、縄文時代人の精神性を考える上で貴重な遺跡です。

○雄勝町岩井堂洞窟

山形県境に近い雄物川上流右岸の岸壁裾にある洞窟遺跡で、縄文時代早期から平安時代まで使われていました。４つの洞窟があり、最も保存状態の良い第４洞窟では、一番上の第１層からは平安時代、弥生時代、縄文時代晩期の土器が、３層からは縄文時代後期の土器、５層からは縄文時代前期の土器、７層より下からは縄文時代早期の尖底土器という具合に、層位的に土器が見つかっています。

Ⅳ　北の縄文文化回廊づくりに向けた推進方策

1　プログラム推進体制の整備

■　政策展開のプロセス

○　北の縄文回廊づくり推進協議会（仮称）の設置

北の縄文文化回廊づくりに向け、４道県の関係者が連携・協力して推進することが必要であるため、４道県の民間団体、有識者、行政などで構成する「北の縄文回廊づくり」推進協議会（仮称）を設置し、プログラムを推進するための体制を整備します。

年度	内　　容	開催主体
１６	□北の縄文文化回廊づくり推進協議会（検討～開催）	北海道
１７		青森県
１８		秋田県
１９		岩手県

取　組　事　例

□　北海道遺産協議会

平成１３年に北海道遺産構想を中心的に担う民間組織として「北海道遺産構想推進協議会」が設立された。協議会では、北海道遺産の選定、北海道遺産構想の普及・啓発、地域が担う保全・活用の取り組みへの支援などの事業を実施。平成１３年１０月に第１回の北海道遺産を決定・公表し、平成１４年度はＰＲのための各種事業を実施。平成１５年度からは第２回目の北海道遺産の選定を実施中。

北海道遺産・・・次世代へ引き継ぎたい有形・無形の財産の中から、北海道民全体の宝物として選定。掘り起こされた宝物を地域で守り、育て、活用していく中から新しい魅力を持った北海道を創造。

・地域の宝物を掘り起こし、育成・活用する過程で地域づくりや人づくりを展開

・自分が暮らすまちや地域への愛着と誇りを醸成

・観光促進をはじめ、地域経済活性化へとつなげる

協議会の構成　　北海道環境財団など１，５４３の個人・法人

2　普及啓発

■　政策展開のプロセス

○　縄文文化フォーラム等の開催

４道県に存在する豊かな縄文文化遺跡の状況や縄文時代における地域間交流の状況などについて、内外に積極的にＰＲするため、縄文文化フォーラムや縄文文化展などを開催します。

○　ホームページ等による情報発信

既に４道県で設置しているホームページの充実を図るとともに、４道県ホームページの相互リンクや外国語版の作成など行い、内外に積極的に情報発信を行います。

○　普及啓発用パンフレット等作成

４道県共同で使用できるパンフレット等を作成します。

年度	内　　容	開催主体
１６	□北の縄文文化フォーラム等の開催	北海道
	□ホームページの充実・更新、相互リンク	４道県
	□普及啓発用パンフレット等の作成（検討～作成）	４道県
１７		青森県
１８		秋田県
１９	□北の縄文文化フォーラム等の開催(４年間の取組の総括等)	岩手県

取　組　事　例

□　三内丸山遺跡縄文シンポジウム

県外に情報発信を行うため、平成７年度からシンポジウムを実施。

月　日　　平成１５年１２月２１日（日）

場　所　　東京都

内　容　第１部　三内丸山遺跡最新情報
　　ー今年度の発掘調査からー
　　第２部　基調講演
　　「三内丸山遺跡と円筒土器文化」
　　第３部　遺跡からの報告
　　（畑内遺跡（青森）、池内遺跡（秋田）、北黄金貝塚（北海道））
　　第４部　パネルディスカッション「円筒土器文化から探る縄文社会」

主　催　　青森県教育委員会

取　組　事　例

□　埋蔵文化財展

岩手県立埋蔵文化財センターの普及事業の一環として毎年県内各地で開催

月　日　平成１５年１１月２２日～１２月１４日

場　所　江刺市郷土文化館

テーマ　「胆江の地に輝いた　いにしえの文化」

内　容　埋蔵文化財センターが行った胆江地区
　　の発掘調査の成果を縄文時代を中心に展示

主　催　岩手県立埋蔵文化財センター
　　岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

（平成１６年度からは内容を一新し、盛岡市の埋蔵文化財センター内で開催）

取　組　事　例

□　各道府県の縄文文化関連のＨＰ

北海道：「北の縄文」http://www.pref.hokkaido.jp/skikaku/sk-ssnji/joumon/index.html
　　北海道内各地の縄文文化遺跡や縄文に関した活動を行っている団体等を紹介するとともに子ども向けに縄文時代の暮らしを解説

青森県：「特別史跡三内丸山遺跡」http://sannaimaruyama.pref.aomori.jp/
　　三内丸山遺跡の概要が活動内容、発掘の状況を紹介するとともに、体験学習やイベントのを案内

岩手県：「いわての文化情報大辞典」http://www.bunka.pref.iwate.jp/
　　岩手県の伝統、歴史、生活、自然文化を紹介。縄文文化については、国・県指定の史跡、文化財の概要を紹介

秋田県：「文化財保護室ＨＰ」http://www.pref.akita.jp/bunka/index.html
　　秋田県内の国・県指定の文化財等を紹介するとともに、県文化財調査報告書を掲載

3　人づくり・地域づくり

■　政策展開のプロセス

○　北の縄文文化学交流会議の開催 ＜地域学の確立等に向けた取組＞

４道県の民間活動団体代表者、博物館等の専門職員、学識経験者等による情報交換、意見交換の場として北の縄文文化学交流会議を開催します。

○　生涯学習活動等の促進＜関係教育委員会などとの連携＞

縄文食づくり講座などといった「縄文文化講座」やまが玉や土器づくり体験講座、人材育成セミナーの開催など生涯学習活動の促進に取組むとともに地域の将来を担う子どもたちへの普及を図るため、学校教育活動や修学旅行の誘致などの促進に取組みます。

○　ＮＰＯなど民間活動の促進

地域活動の活性化を図るため、４道県民間縄文連絡会議の開催などといった民間活動の促進やＮＰＯ法人化に向けた取組みを支援していきます。

年度	内　　容	開催主体
１６	□北の縄文文化学交流会議の開催	北海道
	□生涯学習活動等の促進（４道県）	４道県
	□ＮＰＯなど民間活動の促進（４道県）	４道県
１７		青森県
１８		秋田県
１９		岩手県

取　組　事　例

□　ＮＰＯ法人三内丸山縄文発信の会

平成７年８月に会を発足し、平成１５年８月ＮＰＯ法人化。東京、大阪、仙台に支部を有し、これまで４１回にもおよぶ「縄文塾」を開催するとともに会報の発行など、活発な活動を展開。近年は、北海道及び北東北３県の交流をテーマとした事業を実施している。

【平成１５年度事業】

○９月１３日　三内丸山お月見祭

○８月３０日～９月２３日

縄文月間連携事業（大船遺跡、三内丸山遺跡、大湯環状列石、御所野遺跡）

取　組　事　例

□　鹿角市　古代焼き大会

年代を問わずに誰にでも作ることのできる「土器造り」を体験し、造ることの難しさ、焼き上げるまでの努力などを縄文人の気持ちになって学習し、郷土を誇りに思う心を養うとともに、一堂に会して土器を焼き上げることによって地域のふれあいの場を創造する。

日　時　平成１５年８月２３日～２４日

場　所　鹿角市　大湯環状列石特設古代村

主　催　古代焼き実行委員会

取　組　事　例

□　縄文ボランティア・ワークショップ

縄文遺跡を他地域との関わりや気候風土が育んだ地域の誇るべき歴史遺産として、民間レベルによる利活用を促すと ともに、新たな地域づくりや観光事業等への活用などへの展開を図っていくための拠点や体制づくりをめざすため、行政・民間団体構成員等を対象としたワークショップを開催。

日　　時　平成１６年１月３０日

場　　所　南茅部町

内　　容

・基調講演：「歴史遺産の活用と市民活動」

・実践報告：「文化資源活用とＮＰＯ活動」

・解　　説：「ＮＰＯ法人の設立と事務」

・全体討議：「民間団体の活動方向、ＮＰＯ法人化への課題、行政との連携」

4　観光資源としての活用検討・促進

■　政策展開のプロセス

○　観光プロモーション等の促進

観光プロモーションやインターネットなどを活用した情報提供など、新たな観光資源としての縄文遺跡の活用を検討促進します。

○　受入体制の整備促進

遺跡を訪れる人々を案内するボランティアガイドの育成促進など、受入体制の整備を促進します。

年　　度	内　　容	開催主体
Ｈ１６	観光プロモーション等の促進 受入体制の整備促進	４道県
Ｈ１７		４道県
Ｈ１８		４道県
Ｈ１９		４道県

取　組　事　例

□　北海道遺産ツアー

北海道遺産は平成13年10月に25件が選定されて以来、北海道の新しい観光資源としても道内外から注目され、これまでに複数の民間の旅行代理店により「北海道遺産をめぐる旅」が商品化され、平成15年度に合計1,000人を超える参加者を得た。

このうち、北海道遺産「内浦湾沿岸の縄文文化遺跡群」を含む北海道遺産ツアーは、札幌発日帰りコース、1泊2日コース、全道１週コースなどが企画され、ある代理店では平成15年度に３回、合計65人が伊達市北小金貝塚公園を訪れた。

北海道遺産を巡るツアーは、地元のボランティアガイドによる説明や体験を通じて、北海道の歴史や文化などを直に聞き、学ぶことが特徴の一つであり、北黄金貝塚公園でもボランティアグループ「オコンシベの会」が観光客や修学旅行生などへの解説や、黒曜石によるナイフづくり、縄文土器づくりの体験を支えている。

北海道遺産をめぐる旅については、北海道遺産構想推進協議会により、モデルコースや地元の受け入れ体制情報、見所などを、道内外の旅行業界に対し、随時提供しており、16年においては東京、大阪方面からのツアーも商品化される予定。

※地域をよく知る地元のボランティアガイドの説明は、北海道遺産の旅では好評で、シニアや主婦などが、地域の魅力を知り伝え、地域づくりに貢献する機会の増大や、雇用創出にもつながることが期待される。

5　その他

「北の縄文文化回廊」の世界遺産登録などについて

北海道・北東北の縄文遺跡が世界遺産として登録されることは、これらの遺跡が当該地域のものだけでなく、世界のすべての人びとの遺産として、大切に守り、後世に引き継いでいくこととなり、実現すればとても意義深いことです。

登録に向けては、様々な地元での取組みも必要であり、今後、４道県の関係者により、世界遺産登録に向けた研究・検討などを進めます。

V　おわりに

地域の文化は、歴史や風土、ライフスタイルによって育まれ、地域住民のアイデンティティの源になるものです。

北海道と北東北三県は、はるか縄文の昔から津軽海峡を越えた交流・交易が盛んに行われていたとされており、その後も人的・物的交流の歴史を積み重ねてきました。

こうした背景を踏まえ、地域固有の文化や個性を大切にしながら、地域の魅力を一層高めるため、行政をはじめ、教育関係者、民間関係団体が共通の理解と認識のもとに、それぞれの役割を分担しながら協働の取組みとして進めていくこととします。

Ⅵ　資　料

1　主な史跡・文化財（国指定、道県指定）

（1）　北海道

①　史　跡

所　在	時　期	名　　称	概　　要	指　　定
千歳市	後期	キウス周堤墓群	後期の周堤墓群	国史跡
南茅部町	中期	大船遺跡	中期の集落跡	国史跡
小樽市	後期	忍路環状列石	後期のストーンサークル	国史跡
小樽市	後期	地鎮山環状列石	後期のストーンサークル	道史跡
岩内町	前・中期	岩内東山円筒文化遺跡	前・中期の円筒土器が出土	道史跡
余市町	後期	大谷地貝塚	数少ない日本海側の貝塚 余市式土器の標式遺跡	国史跡
余市町	後期	西崎山環状列石	後期のストーンサークル	道史跡
深川市	後期	音江環状列石	後期のストーンサークル、弓・ヒスイなど出土	国史跡
芦別市	後期	野花南周堤墓群	後期の周堤墓	道史跡
苫小牧市	中期	静川遺跡	中期の環濠集落跡	国史跡
伊達市	前期	北黄金貝塚	前期を主体とする貝塚	国史跡
虻田町	後期・晩期	入江・高砂貝塚	後期・晩期を主体とする貝塚	国史跡
静内町	後期	静内御殿山墳墓群	後期末の積石墓、櫛など副葬品多数	道史跡
斜里町	後期	斜里朱円周堤墓、出土遺物	後期末の周堤墓、石棒・編布など出土	道史跡・道有形文化財
浦幌町	早期	浦幌新吉野台細石器遺跡	石刃鏃文化、浦幌式の標式土器	道史跡
釧路市	早期	東釧路貝塚	早期～近世の貝塚、貝塚中にイルカを配列など	国史跡
標津町	各時期	標津遺跡群（伊茶仁カリカリウス遺跡）	縄文～擦文の住居跡多数、後期の周堤墓など	国史跡

②　文化財

所　在	時　期	名　　称	概　　要	指　　定
千歳市	晩期	動物形土製品	縄文時代の盛土から出土	重要文化財
千歳市	晩期	土面	ママチ遺跡出土、国保有	重要文化財
函館市	前期	椴法華出土の尖底土器	椴法華式の標式土器	道有形文化財
函館市	晩期	日ノ浜遺跡出土の動物土偶	恵山町出土のイノシシ形の土偶	道有形文化財
函館市	早期	住吉町遺跡出土の遺物	住吉町式の標式土器	道有形文化財
函館市	前期・中期	サイベ沢遺跡出土の遺物	サイベ沢式の標式土器	道有形文化財
上磯町	晩期	人形装飾付異形注口土器	上磯町茂辺地出土、国保有	重要文化財

所　在	時　期	名　　称	概　　要	指　　定
南茅部町	晩期	土偶	著保内野遺跡から出土	重要文化財
八雲町	後期	コタン温泉遺跡出土品	後期主体の貝塚	重要文化財
岩内町	前期、中期	岩内東山円筒文化遺跡出土の遺物	前・中期の円筒土器	道有形文化財
女満別町	早期	女満別石刃鏃遺跡出土の遺物	豊里遺跡出土遺物、石刃鏃文化	道有形文化財
室蘭市	晩期	土偶	本輪西遺跡出土、国保有	重要文化財
静内町	後期	静内御殿山遺跡出土の遺物	櫛、勾玉、石棒、土偶、土器など	道有形文化財
大樹町	早期	大樹遺跡出土の遺物	大樹式の標式土器	道有形文化財

（２）　青森県

①　史　跡

所　在	時　期	名　　称	概　　要	指　　定
青森市	前期、中期	三内丸山遺跡	前期から中期主体の大集落遺跡	国特別史跡
青森市	後期	小牧野遺跡	後期のストーンサークル	国史跡
木造町	晩期	亀ヶ岡石器時代遺跡	遮光器土偶､日本最古のガラス玉、稲籾等多数出土	国史跡
木造町	前期、中期	田小屋野貝塚	数少ない日本海側の貝塚 豊富な動物遺存体	国史跡
八戸市	晩期ほか	是川石器時代遺跡	弓、太刀等の木製品、赤・黒の漆を塗布した土器など	国史跡
八戸市	早期	長七谷地貝塚	魚介類中心の自然遺物や結合式釣針等の漁具出土。高度な漁撈文化	国史跡
天間林村	前期、中期	二ツ森貝塚	前期から中期の貝塚及び集落遺構	国史跡

②　文化財

所　在	時　期	名　　称	概　　要	指　　定
八戸市	晩期	陸奥国是川遺跡出土品	土器、石器、木器、玉類、土偶など多数	重要文化財
青森市	晩期	壷形土器	十和田市滝沢字川原出土。大ぶりで、きわめて精緻な作り	重要文化財
森田村	前期・中期	石神遺跡出土品	円筒土器文化の代表遺跡から出土	重要文化財
青森市	後期	大石平遺跡出土品	手形・足形付土製品出土	重要文化財
八戸市	後期後半	風張１遺跡出土品	合掌土偶等出土	重要文化財
八戸市	後期	薬師前遺跡墓坑出土品	縄文後期の集団墓の実態と縄文社会の葬送儀礼の一端を示す	重要文化財
弘前市	最終末	砂沢遺跡出土品	縄文・弥生両時代を繋ぐ遺物	重要文化財
青森市	前期・中期	三内丸山遺跡出土品	土器・石器に加え、骨角器、編物木製品等有機質の遺物が出土	重要文化財
青森市	中期 ないし後期	石棒	全面が研磨された優品	県重宝

所　在	時　期	名　　称	概　　要	指　　定
名川町	早期	縄文式尖底土器	南関東の茅山式土器の影響を強く受けた珍しい土器	県重宝
木造町	晩期	亀ヶ岡式皿形彩色土器	口縁が内側に屈曲した小型の土器	県重宝
浪岡町	晩期	亀ヶ岡式壷形彩色土器	体部器面は黒漆で塗装し、ﾍﾞﾝｶﾞﾗを混ぜた漆で文様が描かれる	県重宝
浪岡町	晩期	亀ヶ岡式壷形羽状縄文土器	形が優れているばかりでなく、胴部の羽状縄文も精巧を極めている	県重宝
浪岡町	晩期～	亀ヶ岡式浅鉢形台付土器	洗練された外観	県重宝
木造町	晩期	盤形藍胎漆器	スゲまたはイグサなどを編みあげベンガラを混ぜた漆を塗装	県重宝
青森市	晩期	亀ヶ岡式壷形丹漆器土器	器面は内外とも丹漆で塗装され無文土器	県重宝
八戸市	中期	縄文式甕形土器	体部は地文に斜縄文、器体は格子状の区画装飾が施された優品	県重宝
青森市	晩期	縄文式土偶	中空の遮光器土偶	県重宝
三戸町	晩期	亀ヶ岡式壷形土器	縄文工芸の極致を思わせる優品	県重宝
八戸市	中期	縄文式土器	東北地方南部に見られる大木式土器の影響を強く有する土器	県重宝
青森市	晩期	縄文式注口土器	急須形の大型の注口土器	県重宝
青森市	晩期	漆塗壷形土器	漆塗土器の代表的な優品	県重宝
青森市	晩期	勾玉	勾玉中最高の部類に属する優品	県重宝
天間林村	前期・中期	鯨骨製青竜刀骨器、鹿角製尖頭器、猪牙製垂飾品、鹿角製叉状品	ヤスまたは銛先、針などの漁具	県重宝
木造町	晩期	亀ヶ岡式土器	工芸技術水準の高さを示す優品	県重宝
八戸市	中期	縄文式板状土偶	一王子遺跡から出土	県重宝
森田村	前期・中期	石神遺跡出土縄文式遺物	土器、石器の他、板状土偶や装飾品、石鏃、磨石等	県重宝
青森市	晩期	亀ヶ岡遺跡出土品	工芸的に優れ国内外より注目	県重宝
木造町	晩期	亀ヶ岡式香炉形土器	文様装飾をはじめ、製作技法の面でも、同時期を代表する優品	県重宝
青森市	後期	縄文土器（狩猟文土器）	縄文時代の生業の一端を示す珍しい土器	県重宝
大畑町	晩期	二枚橋(2)遺跡出土品（一括	祭祀関係の資料として充実	県重宝
弘前市	後期旧石器	大森勝山遺跡出土の旧石器	青森県の発掘調査における最初の旧石器	県重宝
青森市	草創期	細隆起線文尖底深鉢形土器	草創期のなかでも古い段階に属する土器	県重宝

（３）　岩手県

①　史　跡

所　在	時　期	名　　称	概　　要	指　　定
大船渡市	後期・晩期	下船渡貝塚	土偶、骨角器、人骨、埋葬犬	国史跡
大船渡市	中期	蛸ノ浦貝塚	巨大貝塚、骨角器、石器、人骨	国史跡
大船渡市	晩期	大洞貝塚	大洞式土器、骨角器、人骨	国史跡
大船渡市	早期～晩期	関谷洞窟住居跡	貝殻文尖底土器、人骨、貝殻	県史跡
陸前高田市	早期～晩期	中沢浜貝塚	骨角器、装身具、人骨、埋葬犬	国史跡
北上市	前期～後期	樺山遺跡	配石遺構、竪穴住居跡、土偶	国史跡
北上市	中期・後期	八天遺跡	大型建物跡、耳・鼻・口形土製品	国史跡
一戸町	中期	御所野遺跡	配石遺構、盛土遺構、竪穴住居跡	国史跡
宮古市	前期～後期	崎山貝塚	環状溝、中央広場、骨角器	国史跡
遠野市	前期	綾織新田遺跡	大型居住跡による集落跡	国史跡
盛岡市	中期	大館町遺跡	大規模集落跡、墓壙、土器	県史跡
花泉町	中期～晩期	貝鳥貝塚	骨角牙貝器、人骨、獣骨、魚骨	県史跡
紫波町	後期、晩期	舟久保洞窟	土器、獣骨	県史跡
田野畑村	中期、後期	館石野Ｉ遺跡	大規模な弧状列石遺構	県史跡

②　文化財

所　在	時　期	名　　称	概　　要	指　　定
文化庁	後期	八天遺跡土壙出土品	耳・鼻・口形土製品	重要文化財
文化庁	後期	土偶頭部	萪内遺跡出土の大型土偶頭部	重要文化財
文化庁	晩期	土偶	手代森遺跡出土の大型遮光器土偶	重要文化財
盛岡市	中期	深鉢形土器	繋遺跡出土の伏甕７個	重要文化財
一戸町	晩期	蒔前遺跡出土品	鼻曲がり土面、土器	重要文化財
浄法寺町	晩期～弥生	上杉沢遺跡出土品	クマ形土製品、土器	県有形文化財

（４）　秋田県

①　史　跡

所　在	時　期	名　　称	概　　要	指　　定
鹿角市	後期	大湯環状列石	後期のストーンサークル	国特別史跡
鷹巣町	後期	伊勢堂岱遺跡	後期のストーンサークル	国史跡
能代市	前期	杉沢台遺跡	前期の大型住居、集落跡	国史跡
能代市	晩期	柏子所貝塚	晩期の土坑墓と数少ない日本海側の貝塚	県史跡
八竜町	前期・中期	萱刈沢貝塚	数少ない日本海側の貝塚と集落跡	県史跡
千畑町	中期	一丈木遺跡	中期の集落跡	県史跡
雄勝町	早期～晩期	岩井堂洞窟	早期から晩期までの土器が層位的に出土	国史跡
東由利町	後期・晩期	湯出野遺跡	後期から晩期にかけての墓域	県史跡

②　文化財

所　在	時　期	名　　称	概　　要	指　　定
矢島町		魚形文刻石	魚の図柄を線刻した通称「鮭石」２点	県有形文化財
阿仁町	中期か	魚形文刻石	魚の図柄１０尾を線刻した石	県有形文化財
大曲市	後期	土偶	妊娠した女性を表現した土偶	県有形文化財
二ツ井町	晩期	麻生遺跡出土品	土器・石器・装飾品・土偶・岩版など	県有形文化財
秋田市	中期	鉢形土器（沢田遺跡出土）	北陸・中部地方との交流を示す土器	県有形文化財
五城目町	晩期	中山遺跡出土漆工及び漆工関係出土品	漆液漉し布、漆液を容れた土器、顔料粉砕具の石皿、漆塗り木製品など	県有形文化財
大館市	前期	鋒形石器（上ノ山Ｉ遺跡出土）	祭祀で埋納された鋒形の半磨製・半打製の石器	県有形文化財
能代市	晩期	柏子所貝塚出土骨角製品及び貝製品	刺突具や装飾品など骨角製品９３点、腕輪など貝製品８０４点	県有形文化財
森吉町	晩期	白坂遺跡出土品	「笑う岩偶」、双口注口土器など	県有形文化財
昭和町	晩期	人面付環状注口土器	人体を模倣した特異な形態の注口土器	重要文化財
東成瀬村	前期	大型磨製石斧	日本最長の大型磨製石斧４本	重要文化財

2　関係機関・団体

（1）　北海道

名　　称	住　　所	電話番号
北海道総合企画部政策室参事	060-8588　札幌市中央区北３条西６丁目	011-231-4111(23-932)
北海道環境生活部 生活文化・青少年室文化振興課	060-8588　札幌市中央区北３条西６丁目	011-231-4111(24-413)
北海道教育庁生涯学習部文化課	060-8544　札幌市中央区北３条西７丁目 道庁別館	011-231-4111(35-624)
北海道開拓記念館	044-0006　札幌市厚別区厚別町小野幌53番地	011-898-0456
北海道文化財保護協会	060-0002　札幌市中央区北１条西７丁目 かでる２・７　９階	011-271-4220
（財）北海道埋蔵文化財センター	069-0832　江別市西野幌６８５－１	011-386-3238
江別土器の会	069-0864　江別市大麻泉町３０番地１２	011-386-9796
いしかり砂丘の風の会	061-3216　石狩市花川北６条１丁目３０－２ 石狩市教育委員会文化財・博物館 準備室内	0133-72-6123
カリンバの会	061-1425　恵庭市文京町１丁目１０～２０	0123-33-4860
北の縄文ＣＬＵＢ	041-1600　茅部郡南茅部町字６０４－１	01372-2-5510
噴火湾考古学研究会	052-0022　伊達市梅本町２９－２	0142-25-2078
オコンシベの会	052-0012　伊達市松ヶ枝町３４番地１ 伊達市教育委員会文化財課内	0142-21-5213
縄文スクスク森づくりの会	052-0012　伊達市松ヶ枝町３４番地１ 伊達市教育委員会文化財課内	0142-21-5213
アプタフレナイの会	049-5605　虻田郡虻田町高砂町４４－３２	0142-76-4375

（2）　青森県

名　　称	住　　所	電話番号
青森県教育庁文化財保護課	030-8540　青森市新町２丁目	017-734-9924(5250)
青森県埋蔵文化財調査センター	030-0042　青森市大字新城字天田内152-15	017-788-5701
青森県立郷土館	030-0802　青森市本町２－８－１４	017-777-1585
青森県県土整備部都市計画課	030-8570　青森市長島１－１－１	017-734-9684
青森県土整備事務 所都市公園事務所	038-0031　青森市大字三内字丸山３０５	017-782-9460
三内丸山応援隊	038-0031　青森市大字三内字丸山３０５	017-766-8282
ＮＰＯ法人三内丸山縄文発信の会	030-0861　青森市長島２－２４－２	017-773-3477

（３）　岩手県

名　　称	住　　所	電話番号
岩手県教育委員会事務局 生涯学習文化課	020-8570　盛岡市内丸１０番	019-629-6180
財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	020-0853　盛岡市下飯岡11-185	019-638-9001
岩手県立博物館	020-0102　盛岡市上田字松屋敷34	019-661-2831
御所野縄文公園	028-5316　二戸郡一戸町岩舘字御所野２	0195-32-2652

（４）　秋田県

名　　称	住　　所	電話番号
秋田県教育庁 生涯学習課文化財保護室	010-8570　秋田市山王３丁目１－１	018-860-5193
秋田県立博物館	010-0124　秋田市金足鳥崎字後山52	018-873-4121
秋田県埋蔵文化財センター	014-0802　仙北郡仙北町払田字牛嶋２０	0187-69-3331
秋田県文化財保護協会	010-8580　秋田市山王３丁目１－１	018-860-5193

3　第７回北海道・北東北知事サミットにおける合意事項

第7回北海道・北東北知事サミットにおける合意事項

北海道知事　高　橋　はるみ
青森県知事　三　村　申　吾
岩手県知事　増　田　寛　也
秋田県知事　寺　田　典　城

Ⅰ　文化交流

北海道・北東北地域が、国内における地域ブロックであると同時に東アジアをはじめグローバルな視野でも一体性を持つ地域として発展していくことは各道県にとって意義深いことである。

両地域が連携し発展していくには、こうした一体性や共通性を認識し合うとともに、地域の持つ大きな可能性を内外に発信していくことが重要である。

地域の文化は、歴史や風土、ライフスタイルによって育まれ、地域住民のアイデンティティの源になるものである。北海道と北東北三県は、はるか縄文の昔から津軽海峡を越えた交流・交易が盛んに行われていたとされており、その後も人的・物的交流の歴史を積み重ねてきた。

こうした背景を踏まえ、地域固有の文化や個性を大切にしながら、地域の魅力を一層高めるため、相互の連携を一層深めた取組を行う。

1 北の縄文文化回廊づくり（４道県合意事項）

北海道・北東北地域には、青森県の三内丸山遺跡や北海道遺産にも指定された内浦湾沿岸の遺跡群などが多数存在し、縄文時代にも海を越えた交流が行われていたとされている。

この地域がかつて極めて高いポテンシャルを持っていたということを道民、県民が共有することは、地域の将来にとって大きな意味を持つものであり、縄文文化遺産などの価値を見直し、地域間交流や情報発信などを行い、世界遺産登録も視野に入れて、この地域を「北の縄文文化回廊」として内外にアピールしていく。

(1)　北の縄文文化回廊づくり」実践プログラムの作成（４道県合意事項）

４道県の職員等で構成する検討プロジェクトチームを設置し、「北の縄文文化回廊づくり」の実践プログラムを作成する。

(2)　北の縄文文化回廊」の情報発信（４道県合意事項）

縄文文化フォーラムを開催するとともに、ホームページの充実、パンフレットや教材等を作成するなど、積極的な情報発信を行う。

(3)　北の縄文文化学」交流会議の開催（４道県合意事項）

研究者、民間有識者等で構成する研究交流会議を開催し、専門分野での交流を図るとともに、生涯学習活動やＮＰＯ活動などを促しながら、歴史の分野における「地域学」の確立等に向けた取組を進める。

2 食料生産・供給地域が担う北の食文化」の発信（４道県合意事項）

４道県は、ともに四季折々に特色ある味覚を堪能できる食の宝庫であり、食料自給率が１００パーセントを超える国内でもトップクラスの食料供給力を備える地域である。

北海道・北東北地域は、こうした恵まれた条件を生かしながら、スローフードの理念に学ぶなど、

地域に根ざした食文化を大切にし、次代に引き継いでいくことにより、豊かさを実感し健康に暮らすことができる地域として発展していくことが重要である。

このため、食の安全・安心の確保に向けた連携を一層強めるとともに、食文化を含めた質的な意味においても真の食料生産・供給地域としての役割を果たしていくことを目指すものである。

(1)　食文化」の情報交流の促進（４道県合意事項）

北海道・北東北の食文化の価値を再認識するとともに、相互の交流を一層促進するため、地産地消や食育などの取組み、伝統ある料理や両地域の食のつながりに関する聞書きなど食文化に関する情報を蓄積・体系化し、あわせてネット上に常設フォーラムを設置するなど、食に携わる者すべてが自由に利用し、交流が可能となる「北の食文化データボックス」（ＨＰ）の構築などを行う。

(2) 国内外への情報発信（４道県合意事項）

首都圏や海外事務所などを活用し、北海道・北東北地域の食文化を紹介する「北の食文化展」を開催し、国内外に向けたＰＲを行う。

3 博物館等共同展の開催（４道県合意事項）

平成１６年度において、北東北３県の行政区域の原形がつくられた弘前藩・盛岡藩・秋田藩等の諸藩の成立期から約３００年間（江戸時代～明治時代中期）に北東北を描いた絵図や風俗図会などを展示する北東北博物館共同展を開催し、北東北３県の歴史的背景をかえりみ、新たな地域像の形成と将来像を考える機会とする。

あわせて今後、４道県の博物館・郷土館・文化施設等による共同展等の開催に取り組む。

Ⅱ　その他事項

1 東北新幹線全線の早期開業と北海道新幹線の早期建設（４道県合意事項）

北海道と北東北の地域間交流を一層進め、産業・経済・文化の振興を図るため、東北新幹線全線の早期開業と北海道新幹線の早期建設の促進を図る。

2 地震・津波等防災対策の充実・強化（４道県合意事項）

安心して暮らせる地域社会を実現するため、大規模地震が発生する可能性が高い千島海溝沿いから日本海溝沿いの地域などを対象とした地震・津波対策などの強化に向け、防災情報の共有や４道県の連携の可能性などを検討する。

3 新たな自治の実現に向けた検討会の開催（４道県合意事項）

地方分権の理念の実現に向けて、「地方からの分権改革」を国へ発信する土台を構築するため、４道県のこれまでの研究成果をもとに、道州制も展望した都道府県のあり方などについて意見交換を行う「北からの分権改革」検討会（仮称）を開催する。

4 北東北三県広域連携検討組織の設置　（３県合意事項）

今後の北東北の新たな連携事業、「北東北のグランドデザイン」等の検討のため、北東北三県の企画担当課長等による検討組織を設置する。